

あとから来る者のために  
坂村 真良

あとから来る者のために  
田畑を耕し  
種を用意しておくのだ  
川を  
山を  
海を  
きれいにしておくのだ  
ああ  
あとから来る者のために  
苦勞をし  
我慢をし  
みなそれぞれの力を傾けるのだ  
あとからあとから続いてくる  
あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分にできる  
なにかをしてゆくののだ

## 令和6年 第5回 EM技術セミナー

U-net 会員対象の第5回EM技術セミナーが11月8日にオンラインで開催されました。今回は、3名の方々にそれぞれ異なったテーマで発表して頂きました。とても参考になる発表でしたので概要をご紹介します。

### 「量子の目からEMを理解する 第3回」

諏訪東京理科大学元教授・工学博士 奈良 松範

量子力学や量子効果は決して新しいものではなく、宇宙の始まりから存在していた。私たちが今、その存在に気づき、驚嘆しているだけである。

私たちが理解できない常識を外れた現象に遭遇した時、そこには量子力学が働いている可能性が高い。私たちが知らないだけである。

同じ場所で長期間耕していると地力が低下することが知られている。その原因はたくさんあり、土壤有機物の減少、養分の偏りや枯渇、塩分濃度の上昇、pH の変動、土壤構造の劣化、微生物多様性の低下、水分管理の不適切さ、病害の累積、有害化学物質や重金属の蓄積、過剰耕作や浸食などが考えられる。

これを4つに分類すれば、土壤有機物の減少、生物多様性の低下、化学物質の蓄積やアンバランス、そして、土壤の物理的な状態の悪化ということになろう。その対策は、必要な有機物や化学物質の不足であればこれを補うこと、生物多様性であれば生物を補うこと、有害化学物質の蓄積であればこれを消去すること、そして土壤物理的な状態悪化は機械的な方法で改良すること、などが考えられる。

しかし、言う易く行は難し、これらの対策の確実な実施は難しい。「いつ、どんなことを、どこまでやればいいのか」、地面や草花に聞いても答えてくれない。

連作障害も同様で、その障害の主な原因として病原菌の蓄積、土壤の栄養バランスの崩れ、アレロパシー物質の蓄積、害虫の増加、土壤の物理的劣化、微量元素の不足、土壤pHの変化、有益な土壤微生物の減少、塩分の蓄積、遺伝的多様性の低下、根の競争など、さまざまな要因が複雑に絡み合って発生する。

地力低下と連作障害は似通った部分が多いが、どちらの場合でも相手(原因)がつかめない、適当な対策が決められないことが問題となる。人の病気で言えば、発病の主な原因あるいは仕組みがわからないが治療しなければならない、という状況であろう。人の場合は、体力をつけて免疫力を向上させ、自己修復能力を最大限に発揮させて、乗り切るしかない。

農もしかり、病原菌や病害虫の蓄積、そして遺伝的多様性の低下を防ぐために有用な微生物(EMなど)を投入することが、免疫力を高め、さらに有害物質の蓄積を防止・消去するための自己修復能力を最大限に発揮させることになる。その結果、蓄積された悪い酸化物は還元され、土壤劣化・障害の発生が抑制される。

少し話の筋から外れるが、アレロパシーという植物などが使う免疫(忌避)物質を考える。植物が放出する化学物質が他の生物に阻害的あるいは促進的な何らかの作用を及ぼす現象と定義されている。

ただし、アレロパシーは皆殺し的な現象ではなく、一属一種的な古い植物、生長が遅い植物や弱い植物が生き残ってきた要因の一つであり、むしろ生物多様性を高める要因であったと考えられている。

アレロパシーを持つ植物が被覆作物(カバークロープ)として、果樹・野菜等の栽培時の雑草防除に利用されており、ヘアリーベッチ、コモンベッチ、ムクナ、アルファルファ、クローバ類、ムギ類などがよく知られているが、これ以外の植物も自分を守るための道具を持っている。

しかし、アレロパシー物質が土壌中に蓄積されて酸化分解された場合に問題が生じる。どんな物質でも酸化されることにより、別の顔を見せるようになるからだ。良い方向に変身するのは結構だが、悪い方向に変身して、自分を守るはずの道具が自分に害を与えることもあるのだ、くわばらくわばら。

人のからだの劣化についても考えてみよう。農地の劣化と人間の身体の劣化もこれまたよく似ている。脳の老化により発生する認知症の原因物質として、アミロイドβ、タウタンパク質、酸化ストレス関連物質、糖化最終生成物(AGEs)、ミトコンドリアDNA 損傷産物、脂質過酸化物質などがある。これらの物質は、神経細胞に有害な影響を及ぼし、認知機能の低下を引き起こす(図1参照)。



図1. 土の中にも、脳の中にもゴミが溜まる

これらすべて脳内に溜まったゴミだといえる。そのゴミは脳内で長期間使用された物質の酸化物である。これは農地で長期間利用された物質の酸化物が農地の劣化や連作障害を招くに至ったストーリーと同じである。

認知症などの原因物質を除去あるいは消去する方法には、免疫療法、抗酸化物質の摂取、ライフスタイルの改善、特定の薬物の使用などがあるが、農地の劣化同様、認知症対策はまだ初期の段階にある。

さてここで、EMに登場していただく。EMの効果は農地のゴミだけでなく、人体(今回は脳)のゴミも除去しているのでないかと考えている。農地における酸化抑制がEMによってなされるのであれば、認知症の主たる原因である脳内物質酸化の発生抑制にもEMは使えるのであろうか。

人の脳に血液脳関門があるので微生物は通過できない。しかし、水溶性ビタミン、ペプチド、ブドウ糖、アミノ酸、ヌクレオチドなどの栄養素、脳毛細血管内皮細胞に発現している輸送タンパク質によって選択的に血液脳関門を通過し、脳内に運ばれる。したがってEMそのものではなく、その遺伝子フラグメント(一部分)が血液脳関門を通過して、そのフラグメントが還元能力を発揮することにより脳の老化を阻止するというストーリーになる。しかし残念ながら、その実現可能性は今後の研究課題になっています。

ところで、多くの微生物は歩けない、歩いたとしても極めて短い距離でしょう。微生物は地面の中で自由に動けないこと、脳の中には入れないことから、微生物そのものを利用する方法に無理があった(図2参照)。しかし、量子サイズの視点で農地の劣化および認知症について考えると、面白いことがわかってくる。



図2. 左: 壁に囲まれて自由に移動できない  
右: 関門を通過できない

酸化物が溜まってしまい、この酸化物が耕作や脳機能を邪魔していることは、一応理解したことにしましょう。私たちが良かれと思って、投与したり食べたりしたものがそこに残ってしまうと、自然の摂理に従い酸化あるいは変質してしまい、有害物質や病気の原因になっていた。

そこで酸化物を溜めないようにするための2つの対策を提案しましょう。1つは余計な量を与えず、必要最小限の量を与えること、もう1つは酸化物を還元したり消去したりすること。今回、2つ目の酸化物の還元限定し、これを量子力学的な視点から考える。

まず基礎知識としてホール効果について説明する。図3にあるように電流が流れている、そこに磁場が作用している場合、これらに直行して電位が発生することをホール効果という。電位と電子の移動を含んでいるので、これらに直行して電子が移動することになる。

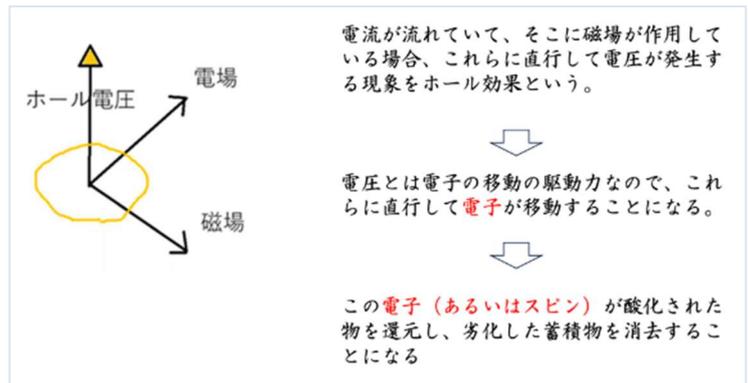


図3. ホール効果(電位差)

地中には迷走電流が常に流れていて、不安定ではあるが電場が常に存在する。また、方位磁石で方位を知ることができるように、地球全体に磁場が存在する。これで舞台が整った、あとホール効果を待つだけであるが、そうはいかない、ノイズ(邪魔)が多すぎる。そこに EM(EMの一部であるフラグメントも含む)が登場する、EMが量子効果を生み出すようなコヒレンス(量子環境)を作ること<sup>\*1</sup>ができれば、量子サイズでホール電位が発生し、電子が移動する(図4参照)。

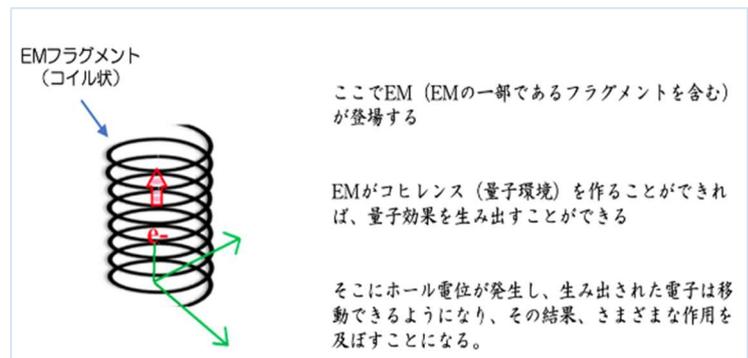


図4. コヒレンスの状態で電子が自由に移動する

電子が相手に移動するということは還元であり、酸化物を消去したことを意味する。すなわち移動した電子は周辺の有害物である酸化物を消去することができる。

<sup>\*1</sup>EMがなぜコヒレンスという環境を形成できるのかについては別の機会に譲る。

認知症は、脳内に蓄積された酸化物などの老廃物が脳の働きを邪魔している状態なので、この老廃物を除去、消去するために、EMが脳内に入って働いてほしい。しかし、微生物は血管脳関門を通過することはできない。そこで微生物そのものではなく、その破片であるフラグメントであればサイズの血管脳関門を通過できるので、ホール効果を起こし、酸化物を主体とした老廃物を還元(除去、消去)できるのではないかと考えている。

酸化物は、脳だけでなく人体の至る所に蓄積する、老化現象だけでなく、若年層の病気の原因ともなっている。将来、EMの利用が農だけでなく、人体の健康にも寄与するメカニズムが解ってくるだろう。量子効果を利用したEMの新しい分野に期待したい。

結びの一言、今回は農も脳も酸化物というゴミが溜まるのが衰弱の原因であるとして、ホール効果を用いた EMによる酸化物除去作戦を展開した。しかし光合成や神経細胞の活動においてはホール効果だけでなく、量子エンタングルメントおよび量子トンネル効果が上手に利用されており、さらに興味深い展開になっている。このあたりの話題は別の機会に紹介します。

## 事務局からのお知らせ

### ■令和7年第1回理事会及び第26回通常総会開催のお知らせ

本会の令和7年第1回理事会及び第26回通常総会は令和7年(2025年)2月27日(木)の午後から沖縄県にて開催されます(ZOOM 参加可)。通常総会が終了後、総会出席者限定セミナー(ZOOM 参加可)、情報交流会の開催が予定されています。翌日28日(金)の午前中に総会出席者を対象とした視察ツアー(青空宮殿、北中城村EMユニバーサルビレッジ、EMX GOLD 工場等)を企画します。正会員の皆様には年明け1月下旬に通常総会議案書、出欠確認書、委任状等の書類を郵送いたします。

## 「丹波あわの村」

丹波あわの村 EM担当 吉彌 信子 理事

丹波あわの村は、京都府亀岡市にて村長が5年前に入手した約1000坪の敷地に設けられています。ここを、EMを徹底的に活用した村にしようということで、ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトに応募し、承認されました。

現在、参加メンバーは約50名ほどですが、京都市や亀岡市をはじめ、静岡県、東京都、大阪府、滋賀県、さらには沖縄県まで、村の理念に共感した方達が集まっています。村人たちが集まった時は必ずEM活性液を作り、家屋の掃除、農地への散布等を行い、EMを徹底的に使うことで家屋や敷地全体の聖域化を進めています。広い敷地には、現在、日本古来のマコモが群生し、キクイモが栽培されています。これから、家庭菜園やハーブ園の設置に加え、山形県長井市の遠藤かつゑさんのオープンガーデンを参考に道路沿いに花畑を整備します。この取り組みにより、通行人や村民に癒しの空間を提供するとともに、近隣住民に私たちの活動を知っていただく絶好の機会となります。



秋分の日が集まった村民、他に東京の方と沖縄の方々の参加はありませんでしたが、今のところ、50名ぐらいの「あわの村」村民です。



今年8月8日の『世界EM団子の日』に行われた琵琶湖のEM浄化活動に、あわの村の村民たちと共に参加し、EM活性液1トンと整流炭団子400個を湖に投入しました。



2024年8月8日世界同時河川浄化の日に、あわの村で参加して、EM活性液1トン、整流炭団子400個を投入しました

また、あわの村の裏手に鎮座する菅原神社の境内を、村人たちと一緒に定期的に掃除をしています。この神社はこの地域の産土神社であり、この清掃活動は地域の皆様に大変喜ばれています。

私たちは、言葉の力(言霊)を活用し、人間性の向上と心身の健康増進を目指して活動しています。比嘉先生が提唱されたEM賛詞は、まさに言霊の一例です。畑作業や清掃、ボカシ作りなど、EMを活用する際

は常に、この賛詞を唱えています。愛を持ってEMを使用すれば、必ず応えてくれることを実感しているためです。

また、私たちは、この村の名前の由来となっており縄文時代から伝わるとされる「あわのうた」や皇室の指南役をされていた白川家に密かに伝えられてきた「とほかみえみため」、そして、檜崎皐月が六甲山で授かったとされる「かたかむな」などの言霊も唱えています。これらの言霊を唱えることで、人間の細胞が活性化され、脳内の否定的な考えが消えると考えており、言葉の持つエネルギーの素晴らしさを日々体感しています。私たちの活動の目的は、日本語の持つ言霊のエネルギーを通して、戦後失われてしまった日本人としての誇りや役割を取り戻すことです。さらに、この知識と経験に関わる人たちに伝えることを目指しています。



## 「伊勢湾の水産資源をEM活動で復活させる 伊勢湾コウナゴ復活プロジェクト」

コウナゴを復活させる会 代表 山本 きし

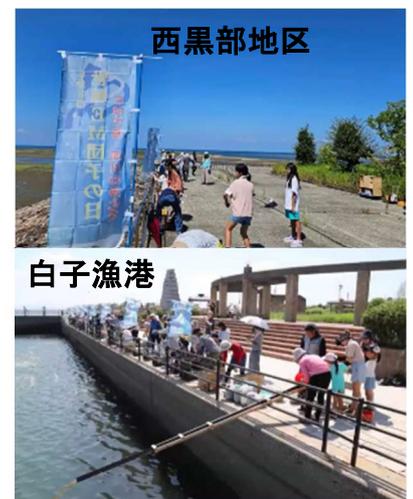
コウナゴを復活させるプロジェクトの7月以降のご報告をさせていただきたいと思えます。

まず、7月15日に、四日市で行われました伊勢湾浄化大作戦では、200人以上の方が集まり、EM団子1万個、EM活性液1.1t投入することができました。EM団子投入後は、ビンゴゲームにじゃんけんゲームと盛り上がりました。16年目の活動ということもあり、参加者の方々の勢いを感じる事ができました。市議会議員さん、県議会議員さんも参加され、挨拶の中でコウナゴを復活させる会に協力したいという話もあり、うれしく思いました。

また、8月8日の世界EM団子の日も、当初3拠点だったところ2拠点増え、全部で5つの拠点で参加することができました。当日は各地域、各国のそれぞれの河川へ、オンタイムで一斉にEM団子を投入するイベントに沖縄の青山さまからのお誘いで仲間に入れて頂きうれしかったです。この日は世界中の方と繋がり、ますますこれからの活動に繋がるような大きなエネルギーをもらい、感動の日にしていただきました。前回、U-netのセミナーでも青山さまからご報告がありましたが、私からも5カ所の取り組みと当日の様子をご報告したいと思います。

まず、松阪の西黒部地区海岸公園では参加者45名、EM団子3,000個投入しました。今まで川へEM活性液を投入していましたが、この日は海への直接投入となりました。子供達も沢山参加でき楽しかったという声がたくさん聞こえてきて嬉しかったです。

次に白子漁港では、参加者119名、EM団子7,500個、EM活性液238ℓ投入しました。ここでは、参加者からEM活性液を投入するための最新兵器、流しそうめんならぬ流し活性液が導入され、子供たちは楽しんで活性液を流しました。EMの投入後は、参加者がじゃんけんゲーム用の商品を持ち寄り、楽しい時間を過ごしました。ここは昨年から引き続き2年目の拠点で、119名という一番参加者が多いところとなりました。



次に南勢地区の白石湖では、34名の参加者でEM団子3,000個、EM活性液140ℓ 投入しました。ここも子供達が沢山参加され楽しい時間を過ごすことができました。ユニバーサルビレッジ西尾の石川さんも親子で合流し、一緒に参加してくださいました。三重県と愛知県のユニバーサルビレッジの拠点が繋がりました。

次に、岐阜・木曾三川公園では、参加者64名、EM団子は7,500個、EM活性液6,762ℓ 投入しました。6tのEM活性液は2台のトラックで運びこまれ、放水している様子はすごいパフォーマンスでEMを体中にかぶった方もおられ、喜んでみえました。ここも投入後に、じゃんけんゲームが行われ、参加者は景品をもらい、楽しく過ごしました。

最後に、私も参加させていただいた中勢地区岩田川観音橋では参加者88名、EM団子1万個、EM活性液480ℓ 投入しました。観音橋は、国道からもよく見える橋ですので、通りかかった方からは壮観な風景だったと思います。

参加者の中にトランペットを吹いてくれた方(ローディー池田さん)が、いい雰囲気を作ってくれ、楽しくEM団子の投入が出来ました。世界EM団子一斉投入は ZOOM 配信されていまして、橋のもとにテントを張り、テレビを置き、そこで各会場の様子を参加者と一緒に見る事ができました。津市議会議員の柏木さんも一緒に活動に加わってくださり、挨拶もいただきました。投入後は、ここでもお楽しみの時間があり、くじ引きで、協賛していただいた商品をゲットした参加者の皆さんも喜んでいました。EM団子の投入の様子は、地元ケーブルテレビの ZTV が取材に来てくれて次の日、早速テレビで放送してくれました。この日を迎えるにあたって、地域の企業さん、商店に呼びかけをし、協賛をお願いしましたところ、津松菱さまよりご協力いただき、駐車場をお借りすることができ、テントを立てることもできました。他にも、15の企業さんと多数の方よりご協力をいただき、くじ引きの商品や、自由に飲食できるようお茶やアイスも提供していただき、熱中症になる方もなく本当にありがたかったです。後日、駐車場を貸して頂いた、津松菱さんにお礼の挨拶に行かせていただくと、これからの活動のチラシを置いてくださいと、とても好意的でこれからの協力もしていただけるようになりました。今回、8月8日のイベントでは、5カ所の拠点で合計、EM団子28,700個、EM活性液、とぎ汁発酵液 7,620ℓ 投入することができました。また来年も、拠点を増やして、活動者も増やして参加させていただきたいと思います。

世界EM団子の日を終えた後、9月に入ってから伊勢湾の海でいろいろな魚が獲れるという情報を聞くようになりました。木曾三川公園の木曾川では沢山のハゼが、しじみは去年より大粒なものがたくさん獲れました。鈴鹿川にも大量のしじみが、また鈴鹿川河口では、カサゴが獲れ、若松漁港では形のよいハゼが獲れたそうです。津市の阿漕浦海岸ではキスが、愛知県中部空港周りではアジが獲れているそうです。このように、皆の意識でこれだけの変化が起き、今までに比べ海の状態も良くなってきているように思います。

これもEMさんのおかげだと感謝しています。私たちの目標である、コウナゴの姿が見られるのも夢ではないと思わせていただいています。



<p><b>木曾川に大粒のしじみ</b> EM投入前 &amp; 投入後 2023. 7. 16</p>	<p>2024. 6. 6</p>	<p><b>R 6年9月 津市阿漕浦海岸に良型キス</b> 阿漕浦海岸の投げキス釣りて良型キス78匹キャッチ 【三重・津】落ちキスシーズンも期待大</p>	<p><b>R 6年9月 鈴鹿川若松漁港に良型ハゼ</b> 堤防チャイ投げ釣りて18cm良型ハゼ登場【三重・若松漁港】1時間で本命8匹をキャッチ</p>
--	-------------------	---	--

中勢地区ではもう一つ嬉しいことに、これから一緒に参加していきたいと青年たちがやる気になってくれて、早々に岩田川をきれいにといい公式 LINE を作って、毎月のチラシ作りやSNSでの呼びかけを行ってくれました。その結果、9月に行ったEM団子づくりは参加人数が増えて、参加された小学生の子供達はかわいい団子を作ってくれ、癒されました。この日の午後は引き続きEMの勉強会、ミニセミナーをさせていただき、90名近くの方が集まり、EM環境浄化、EM野菜、食の大切さについて学ぶことができました。セミナーの後は、青年、キッズは米粉でピザ作りを楽しみ、一般の大人は菜園用のEM団子作りをしました。岩田川をきれいにする会では、11月23日に親のいない子供たちをお預かりしている「みどり自由学園」で、学園の子供たちと職員の方を対象としたEM勉強会をさせていただくことになりました。みどり自由学園では、月に1度子ども食堂を開いていますので、また新たな展開が出来るようにと願っています。

他の拠点でも活動が渦巻いてきており、四日市では毎月2,000個以上の団子づくりに、EMの勉強会もさせていただいています。松阪地区では、川の匂いが臭いという住民の訴えを、松阪市長に伝えたところ、環境課を紹介してくださり、市長と環境課長さんの協力のもと浄化活動が始まりました。松坂市内を流れる、神道川から阪内川、そして伊勢湾へつながる拠点ことができました。愛知県春日井市でも活動を始めたいという仲間が集まり、地蔵川から伊勢湾へつながる拠点ことができました。津市の亀山市に流れる川でも新しい活動拠点ができました。

今年1月から10月18日までに、EM団子は52,223個、EM活性液・とぎ汁発酵液は26,471ℓが河川の浄化活動に投入されました。他にも、たんぼや畑へのEM活性液投入量は45,159ℓ となっています。これからの展開として県内の活動にとどまらず、県外でも、EMで育てた野菜を収穫し、EMについて伝えていき活動の拠点を作っていききたいと思います。この秋には、名古屋・姫路・信州・新潟でEM栽培のお米の収穫、稲刈りを行い、収穫後の秋処理にもたくさんのEMを入れるようにしています。このように、各地で採れたお野菜やお米をマルシェで出店しており、今年とれたお米の味見をしていただくと、この米は美味しい、このお米買ってと子供にせがまれるシーンもありました。三重県内各地はもちろん、東京・新潟や高知でもオーガニックマルシェに出店してEMのお野菜を販売し、お客様にEMを伝えています。

今回、比嘉先生より洗濯キットを頂きましたのでかわいく着飾ってアピールしたところ、沢山の方からの反応があり、塩入の洗濯用EM活性液と共に使ってもらっています。普段の生活にEM環境浄化活動を取り入れるのに本当にありがたいキットです。都会の方にもEM活動が勧めやすいです。沢山の方にお届けさせて頂きたいと思っています。

全ての方が健康に、そしてコウナゴが復活できますように、これからの活動を工夫して展開していきたいと思っています。

R6.9.23 (祝) 午後

団子作り



みどり自由学園

子ども食堂  
(けいりっごカレー)



松阪市  
神道川



愛知県春日井市 地蔵川



津市 亀山市



洗濯キット



## 「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

奈良先生の解説は、ある程度電子工学の内容も理解しておく必要があります。今日の解説のカギは、ホール効果ですが、これは半導体の世界のことです。すなわち、ホール効果が出来ないと半導体は機能しない訳です。とても微細なコイル状になっていることも関与しています。ホール効果で一番重要なことは、電子を呼び込む、要するに還元力を増大することです。

EMで結界を作り、電柱等から潜在電圧を引き込む方法を紹介しましたが、電流は金属でないと流れませんが、電子はロープや紐等で誘導すると移動し、結界線の上にEM活性液を施用することでロープ等を電子が流れる道となって結界が形成されます。

これには、とても微細なフラグメントが必要なのですが、通常物質は遺伝子、DNAの形で表現されていますが、一方で、フラグメントのレベルはDNAのレベルでなく、更に微細な切れ端のようなものが元と同じような性質を持つのです。すなわち、比嘉セオリーのなかで記している、「個が全体であり、全体が個である」とおりのようですが、この説明はホメオパシー的な応用にもつながります。

要するに、小さくなった切れ端が、元の性質を持っていて電子が集まりコヒーレントが働くような、エネルギーが集約するような状態に変わります。

奈良先生の解説にあったように、エネルギーが集約する前段に汚染があると、これが酸化して毒物になり、この汚染を還元状態(中和)で消去することが必要ですが、電子の力によって還元が進み、量子効果が生まれて来ます。EMをずっと使い続けることで、EMフラグメント(分解等で微細な切れ端となり)となり、量子効果を重ね、つなげるということです。人間の身体も病気になるということは、酸化なので、この酸化物を排除するためには、小泉農園が実践している果物EM発酵ピューレやEMの結界を作り、EM生活を徹底することで、様々な現象が量子効果的な形となり、いつの間にか健全になっていることに気が付くということになります。微小なもので、EM的な性質、すなわち量子的性質を持つようなものを集約するという考え方が重要です。

最初の説明に戻りますが、意識的に電子を誘導することで、電子が集まり、磁場がくっ付いて、電圧が発生して、ホール効果が出来るようになります。そのため、潜在電圧を電柱から引っ張って誘導する方法の説明となった訳です。この方法は、家庭の電化製品から出ている電子にも応用でき、家庭内で設置したEM結界のなかで活用することで健康的な空間を創造します。

微細なフラグメントになったところで量子効果が出て来る、という理解が大切です。それだけ細かくなれば、量子的なエネルギーであるスピン流やバレー流を取り込めるようになって考えています。すなわち、小さくなって量子的な機能を持つほど量子エネルギーを集め、量子効果が高くなります。要するに、小さくなればなるほどパワーを起動する力が強くなると理解しておけば更に進化すると考えます。

吉彌さんから報告のあった丹波あわの村ですが、三重県で実施中のコウナゴを復活させる会の課題と同様で、私たちの生活がだんだんと孤立化している状況があります。ひとつには、テレビばかりを見て人生の時間を無駄使いしていることや、AIに支配されてすべてのことをやらなくなる等、人と人との交流が希薄になってきています。そのような背景から、昨今は誰かが声を上げると人々が集まるようなお祭りが全国で盛んになってきています。

テレビを見ることで時間を無駄使いせず、AIに支配されない世界を自分たちで創造することが重要です。そのためには人間的つながりが必要で、EMを介して、コウナゴを復活させる会のように、EM活動が社会化し、集った方がみんな楽しい活動に広がっているように、丹波あわの村の皆さんも理解が深まり発展してきています。このレベルに達すれば、報告にあったように山形の遠藤さんのEMフラワーガーデンの取組みを勉強しよう等、様々な良い活動を上手に取り入れながら、自発的にクリエイティブな世界を持つようになります。このような活動はこれからの社会にとっても重要なことで、EMを進化的に使い、AIができない世界、すなわち、自ら実行し連続的に活動するということです。

以前にも紹介していますが、従来の方法でなく、不耕起連続栽培や山形の遠藤さんのような生態的なガーデン管理(多年草もあり、球根もあり)にチャレンジしてみることです。農業やガーデン管理では、土壌が劣化しないようにEMやEMダンゴを活用していつでも土がフカフカで、ほんの少しの労力で花がいっぱい、

良い農作物ができるような管理ができます。EMグラビトロン炭が入ったEMダンゴを土に入れることで、耕さないで、効率良くものが良く出来るようになります。

そのためにはこれまで紹介しているようなEMの使い方が重要で、従来法のような決まった農業のパターンで使うのではなく、丹波あわの村でもこのポイントを認識して取り組まれることが今後の楽しみです。街道沿いをEMで花いっぱいにする事で、着実に地域をきれいにして逆戻りせず、自然生態系を豊かにするような村づくりを期待しています。

三重のコウナゴを復活させる会の活動は、軌道に乗り始めていることが確認できました。EMが流れて行った先の水系で、魚や貝類等の自然資源が豊かになっていることが報告されました。また最近では、ハワイのアラワイ運河でのEM活動が世界で有名になってきています。ハワイでは、EMダンゴと言わずゲンキダマと言っていますが、これは、大阪漁協が道頓堀をきれいにした時にEM元氣玉として活動していました。現在は SPC GLOBAL\*のボランティア活動として引き継がれていますが、当時、大阪漁協の取組みによって阪神タイガースがいつでも優勝しても良いように道頓堀はきれいになり、鯉の群れが水面に見えたり、川辺に向けて飲食店が営業するようになっています。また、大阪湾の水産資源が豊かになり回復してきていると報道されるようになっています。

一方で、ある生態学者は、自然はこのように自然豊かに復活すると述べている方もいますが、東京湾も大阪湾も上流からEMが投入されているため、自然生態系が豊かに復活したのです。淀川や寝屋川でもEMが投入されていますし、奈良の大和川からもEMが投入されており、大阪湾の生態的資源革命の要因となっています。今回の三重県の活動報告を見て、このような成果に発展するものと確信しています。また、EM洗濯キットの活用も広がっていますので、EM生活を実践する方が増え、普段の生活を通して、積極的に環境を浄化していることに繋がっています。このようなライフスタイルが生態系を発展させる元を創っていることになり、世界中でEMを空気や水の如く使い、EMの量子力学的性質を理解すると、EMを使うことが常識となり使い続けることになります。

かつて、琉球大学構内の池が汚かったのですが、20年前にEMを投入したことで、下流の牧港川の浄化や浦添市沿岸のサンゴ群の発達に繋がっています。大切なポイントは、EM活動をとおして、社会的な役割を果たせるよう、EMの社会性をもっと深掘りし、楽しい情報交換ができることで社会性が発展します。

これからの我々U ネットの課題は、過去にあったEMの効果論争は卒業し、EMを社会化するための楽しみを創り出してゆくことに切り替えることです。そのためには、EMの量子力学的性質の理解や、感知力を磨き、様々な事象が発現したときにはEMの効果だと認識すると色々なことが見えてきますので、今日の発表は、我々が次のステップに進むときに重要なポイントであったと再認識していただければ幸いです。

\*SPC GLOBAL は、理容・美容・エステサロン経営者のためのボランティアチェーン組織です。

## ★令和6年第5回EM技術セミナーダイジェスト版

### 動画視聴のご案内（会員限定）

11月8日に開催されました第5回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画を視聴できます。

**【配信期間】 12月20日(金)の朝9時～12月23日(月)の夜9時まで**

視聴をご希望される会員の方は**12月16日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局 ([info@unet.or.jp](mailto:info@unet.or.jp)) へメールにてご連絡をください。

**視聴用 URL は12月19日(木)**に事務局よりメールにてお知らせいたします。

## EM洗濯キットを使用した感想

片山 六実

比嘉先生から頂いたEM洗濯キットを使用した結果、効果を確認しましたのでご報告したいと思います。

2年前に子供が精密機器メーカーに転職し、それ以来、作業着の汚れがひどく、悩んでおり、通常の洗濯物と区別して洗濯するほどでした。特に足首の汚れがひどく、写真1)にあるような、電動ブラシを使って予備洗いをしてから洗濯をしていました。写真2)は電動ブラシを使って予備洗いをする前の作業着の状態です。写真3)が予備洗い後に洗剤を使って通常に洗濯した作業着の状態です。写真4)はEM洗濯キットを使って洗濯した作業着です。



写真5)は足首の汚れだけの写真を並べてみました。左がEM洗濯キットを使っておらず、通常に洗剤を使って洗濯した時のもの、右は洗濯キットの使用方法に沿って使ったものになります。足元の汚れがきれいになっています。

EM洗濯キットの使用方法にあるように、自分の家で作った塩活性液を加えていますし、汚れのひどい部分には、洗剤や石鹼を汚れ部分に軽く塗って、EM洗濯キットで軽くこすると汚れがきれいに落ちます。以前は、汚れ落ちのいい洗剤を買い求めて、薬局回りをしていましたがそれもなくなり喜んでます。



### ★令和7年第1回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和7年第1回EM技術セミナーを令和7年1月17日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は令和6年12月2日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは令和7年1月16日(木)**です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※令和6年第5回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。例) 姓  名  ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net事務局にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先 E-Mail:[info@unet.or.jp](mailto:info@unet.or.jp) 電話番号:098-923-2600

本回の会員の方には80歳を超えてもお元気にされている方が何人もおられます。今回は宮崎県日向市にお住まいの黒木久善様をご紹介します。

## 「EMと共に迎える人生100年時代」

黒木 久善

大正7年3月27日に宮崎県日向市で生まれ、大正、昭和、平成、令和の4つの時代を生き抜き、今年で106歳となりました。

現在は、日向市、隣の延岡市も含む男女最高齢となり、息子夫婦、孫の4人で暮らしています。今年の敬老の日には市長が挨拶に来られ、表彰されました。

幼少期の12歳の時に肋膜炎を患い、翌年に再発し腹膜炎も併発し一時危篤状態となり長期間の入院生活を経験しました。入院生活中は、学校に行くことができなかったため「本を読むこと」、「師を持つこと」の二つを強く感じ、その当時の想いが自分の考えの原点となっています。昔から自然に関するものや、歴史についての本を読むことが好きでこれまで比嘉先生の書籍の他に船井幸雄先生や関英男先生などの本も多く読みました。

20歳の頃には軍隊に入り、12年間ほど務めました。その頃教育隊として部下を指導し、戦地に送った若者を多く亡くしました。その時の無念さと責任から、のちの人生の「世のため、人のため」という考えに繋がり、座右の銘にもなっています。

EMとの出会いは、今から遡ること約30年前の平成4年、私が77歳の時でした。書店で比嘉先生の著書『微生物の農業利用と環境保全』を手に取り感銘を受けたことがきっかけです。

一度直接話を聞いてみたいと思い、宮崎から1人で飛行機に乗って東京の有楽町読売会館での比嘉先生の講演会に初めて参加しました。講演会を通して比嘉先生の人格に接し、これで行こうと決心しました。早速EMと糖蜜で培養した活性液を作り、その活性液を飲んだところ、とても調子が良く、多くの人に広めたいと思いEMの会を作り、地域の方々に伝えるようになりました。EMも「世のため、人のため」という想いで広めてきました。自宅の近くの直売所では、親戚がEM商品、EM石けん、地元の農産物などを販売してくれており、現在もEM普及の拠点になっています。

現在は毎朝水筒に約800mlの一日分のお茶を作る際にEMX GOLD を100ml程入れ、それを一日かけて飲んでいきます。長年健康でいられるのもEMのおかげだと思っています。EM以外には、薬やサプリメントも一切使用せず、大きな病気もありません。少し体調が悪いかなという時は、EMX GOLD を飲むことで健康を維持できています。病院へは定期検診に行くくらいで、毎回病院の先生に驚かれています。

日常生活では、身の回りのことは自分で行うことができおり、耳も聞こえますし、目も見えます。食事は、EM栽培で作った無農薬野菜を中心に食べています。その中でも玉ねぎを酢に漬けたものや、大豆を煮たものなどを習慣的に食べています。毎日19時頃就寝、3時頃に起床。食事は朝昼晩と食べ



